

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第 6 期第 7 回 豊島区環境審議会
事務局（担当課）		環境清掃部 環境政策課
開 催 日 時		令和 7 年 11 月 11 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所		豊島区役所本庁舎 5 階 509、510 会議室
議 題		1 開 会 2 議 題 （1）2024 年度における「豊島区環境基本計画 2019-2030」の進捗状況 （2）2024 年度における「豊島区環境基本計画 2025-2030」の進捗状況 3 その他 （1）高校生による施策提案の実施状況と成果発表 （2）大学生による取り組みの実施状況と成果発表 4 閉 会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 5 名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	蟹江憲史、関礼子、岡山朋子、高橋正弘、村山顕人、柳井重人、天野純子、小川巧、島沢明史、深澤浩一、岡村弘孝、小堀大藏、水埜多喜子、村上政美、増子嘉英（環境清掃部長）（敬称略）
	そ の 他	施設整備課長（代理出席）、環境保全課長、ごみ減量推進課長、豊島清掃事務所長、生活衛生課長、都市計画課長、地域公共交通担当課長、土木管理課長（代理出席）、道路整備課長、公園緑地課長、庶務課長、学校支援担当課長（代理出席）
	事 務 局	環境政策課長、環境政策担当係長（環境計画・事業）、同主事 2 名

審 議 経 過

【開会】

○会長

ただいまより、第6期第7回豊島区環境審議会を開会いたします。

○環境政策課長

資料の確認

○会長

それでは、議題の方に移らせていただきます。

事務局からご説明のほどよろしくをお願いします。

○環境政策課長

資料第7-1号、資料第7-1号（別紙）、資料第7-2号説明

○会長

ありがとうございます。非常に包括的な内容でたくさんのポイントがあったと思いますけれども、今ご説明いただいた点についてコメントそれから質問をお受けしたいと思います。

○委員

私の専門にあたる基本目標Ⅲの資源循環のところ、レーダーチャートで前回はたしかCで今回はD-と大変酷い結果・評価となっております。なぜこういう評価かというところですね。講座ができなかったとか、イベントをやらなかったとかそういうことであって、実質的な資源循環でどれだけ進んだかという評価ではないというのは承知しました。そこで一つ提案というかお願いなのですが、例えばこの中でもしっかりやっている部分において、この町会・清掃担当者との意見交換、リサイクル・清掃関係施設見学会の開催回数については、当初の計画通り行われているということがありますが、豊島区さんが始めたプラスチックの回収、プラスチックの回収量自体が非常に上がっておりますが、一方でリサイクラーにおいては2月に火災を起こしています。

豊島区のプラスチックによるものではないと思うのですが、今プラスチック製品と、容器・包装両方とも一緒に収集するようになって、全国的にもリチウムイオン電池が内包されている家電に関しての火災事故が頻発しております。こういった施設、リサイクル施設あるいはパッカー車の中で火災を起こすという事故が非常によく起こっている中で、ぜひ、地域・町会の皆様に、リサイクル事業者に機会があれば足立区の工場があるのでそちらもぜひ見学していただきたいと思います。自分たちが出したものが、一体どこにどうやってどういうふうになっているのかをぜひ見ていただきたいというのが一つです。

もう一つリユース食器についてですが、ほとんど使われていないということですが、リユースを進めるというのは今回の計画の中でも資源循環計画の中でも肝の一つに入っていると思います。このリユース食器を使ってできるだけ容器を減らすという取り組みが非常に重要で、例えば区内にある大学の学祭に提供がされていない、あるいは積極的に使ってもらえるよう働きかけていただけるといいかなというのが一点です。と同時に、洗浄がどうなっているかお聞きしたいです。つまり、大阪万博でもやりましたが、リユースカップ、リユース食器を持っているところに一括で借りて、そこに全部お返しするシステムなのか、それとも洗浄して返すということになると全然話が変わりまして、後者の仕組みになっていると多分これは進まないだろうなと思われるわけです。使われやすい仕組みを整えていただけるといいかなと思います。

○ごみ減量推進課長

プラスチックの施設については、委員がおっしゃる通り 3 月にリチウムイオン電池の火災がありました。これは区から出たリチウムイオン電池ではなくて、別の場所から集めてきたものを適切に保管していたのですが、何かの弾みで爆発したということがありました。確かにご指摘通り、そういう施設を区民の方に見てもらって、自分たちの出したプラスチックがどのように変化して、どのように使われてまた再度使われていくのかというのは、良い普及啓発の一つになると思いますので、実現できるように、今ちょうど最終処分場を見てもらったり、清掃工場を見てもらったり、そういう見学はしています。リユース食器については、コロナ禍というのものもなかなか使われなくなりました。また、催し物自体で使われなくなった、そういうことで少し（数字が）落ちているところもあります。実際にリユース食器というのは、洗浄して保管を区の方でまとめてやっているのですが、ここ数年積極的にやっていないこともあり、使ってくださいというような、確かに普及啓発自体も少なかったのかなというところは反省もしていますが、やはりなかなかコロナ禍より前の状態に戻らないというのもあるので、今後のやり方等については検討していきたいと思っています。

○委員

先程のご質問と重なるところがありますが、資料第 7-1 号を見て、やはり私も資源循環分野の取組指標の評価が D-であることについては何が原因だろうと思いましたが、やはり講座やイベント関係だったので、これはコロナが影響しているというのは理解できました。

さらにリユース食器の話ですが、区民ひろばは小学校区に一つ、区内 22 ヶ所あります。その区民ひろばで毎年 1 回、おそらくどのひろばも「区民ひろばまつり」というイベントをやっていると思います。私は西巣鴨に住んでおりまして、今年 10 月のイベントでもお茶を出したのですが、衛生上のこともあり紙コップを使ったので、ごみが結構出てしまいました。何とかこれをリユース食器にできないかと区民ひろばへ提案したいと思いつつ、区のどこに連絡すればよいかわからないことと、洗浄の問題ですね。洗って返却するの

か、そのまま良いのか、民間でもそのまま返却できる場所もあります。また豊島区の場合は、無料で貸し出していただけるのか、というのが質問です。そのまま戻せたら戻したい。なぜかという、区民ひろばの委員の方は高齢化が進んでおり、洗浄は負担が大きいので、貸していただけるようであればそのまま返せるような仕組みを作っていただきたいというのが区民としての希望です。

また、ごみや資源の分別についての詳細な周知のために紙ベースで毎年配ってくださっていますが、それでもわからないことがあると電話で尋ねることがあります。先日も清掃事務所に電話して驚いたことがありました。ポンプ式やスプレー式のボトルは中にコイル等が入っているので金属が含まれますが、どうやって分別したらいいのか尋ねましたら、「ボトルと一緒にプラスチックの資源として出してください」ということでした。重箱の隅をつつくような例で申し訳ないのですが、同じような問い合わせのデータがあると思うので、データをためて更新をしていただけたらと思います。

それから区でやればすぐできるのではないかと思いますのですが、発送する際の封筒など、例えば保健所からこちらのように窓の空いた封筒でいろんな案内を出しておられます。最近の企業の封筒は窓が空いているものだと「窓の部分にグラシン紙を使用しておりますので、はがさずにそのままリサイクルできます」と書いてあることがありますが、豊島区の場合は記載がないですし、紙自体にも古紙を使っているのかわからないです。一番気になっていたのが、広報誌です。とても読みやすくなってありがたいのですが、東京都や他区では 100%や 70%を古紙リサイクルしています、という「R マーク」などが記載してあります。おそらく豊島区でも古紙を使っているのではと思うのですが、いつになったらこのようなわかりやすい表記がされるのかなと。以前から気になっていたことを述べさせていただきました。

○会長

ありがとうございます。では 3 点あったと思います、リユース食器等はゴミの分別に関すること。それから封筒や広報誌のことについてです。

○ごみ減量推進課長

リユース食器については無料でお貸ししております。ただ先程申し上げた通り、あまり活用実績も多くないということ、今、事業自体も見直しも行っておりますので、ご意見をなるべく反映できるように検討してまいりたいと思います。また、区民の皆様からいただいたお問い合わせについてはこちらで全て回答と問い合わせ内容を記録しておりますので、やはり質問の多いものはリーフレット等で反映できるように検討していきたいです。ただ、こういう紙媒体だけでなく、最近はホームページや 3R アプリもありますので、そういうものも使ってなるべく区民の皆様によりわかりやすいような普及啓発の方法なども考えていきたいです。

○環境政策課長

3 点目の封筒ですとかそういった案内の広報誌についてですが、庁内もちろんエコアクション 21 の事業所としても率先していろんな削減や環境にやさしい行動をしていくというところは今回の基本計画にもありますので、もちろんしっかりやっていくということで、実際使用はしているけれども表示がされていなかったりするものもあるのかなど、使用しているのであれば表示もしっかりしていくというところも大事になってきます。現状を確認しながら、各部署にも環境管理推進員や、それをまた情報発信していくデコ活リーダーズという職員の庁内横断的にやっておりますので、しっかり発信していきたいと思いますし、改めて注意喚起という形でやっていきたいなというふうに考えております。

○委員

緑に関する意見ですけれども、資料第 7-1 号の緑被率が下がっています。定義では目安値との差が 10%未満であるので○ですけれども、増やそうと思っているものが減っているということは真逆のトレンドになっているのですから、これはかなり重視というか心配した方がいい項目かなというふうに思います。それから資料第 7-2 号の直近の数字を見ても、わずか 1 年でずいぶん緑被率やみどり率が減ってしまっていますので、おそらくですが、例えば再開発が起こると緑は今増える傾向にあると思いますが、逆に減っている部分があるはずで、どんなところで緑が減っているかの詳細な分析が必要かと思います。その上で、雨水流出抑制対策もあまり進んでいないので、うまく街路の再整備の中でグリーンインフラを入れて緑を増やし、雨水の流出抑制を図るということも新しいパイロットプロジェクトとして、必要なのではと思います。

○公園緑地課長

緑被率につきまして、まず 5 年に 1 回調査しているというところが 1 点でございます。そういった点で折れ線グラフだと横になっているというのが現状でございます。今回の数字が減っているのは、特に大きかったのが 2 点ございまして、一つは街路の緑被率が減っていること。これはどういうことかと分析しますと、近年街路樹を剪定する際に、お金の関係もあって強剪定で強めに刈り込むことが多いです。刈り込んだ後に写真を撮ると、結構緑被率が減っているというところがございまして、街路樹の本数としてはそれほど変わってないのですが、そのような点で減っているというところが一つでございます。もう一つの理由といたしまして、建物の建て替え等があって、たとえば古民家の庭に樹木があったところを伐採して建て替えているという点がございまして、そういったところが大きい要因として考えております。今後の見込みといたしましては、例えば区役所横に南池袋 2 丁目 C 地区という再開発が進んでおりますし、今 2 件の再開発の工事が進んでおりますので、そういったところに空地ができて、空地の中に緑が植えられて高まっていくのではないかと想定されています。緑被率調査の時点ではカウントできなかった公園等もございまして、今後は数値が増えていくものと考えております。

○委員

ありがとうございます。街路樹の強剪定についてはたしかにコストの問題がありますが、同時に熱中症の対策にもなるはずなので、総合的な評価が必要かと思います。これはコメントです。

○環境政策課長

先程の雨水流出関係で、道路整備課長からお願いします。

○道路整備課長

昨今、豪雨によって豊島区は特に下水の排水能力を超えるほどの大雨が降っており、なかなか排水しきれない点があります。内水氾濫を生じているようなところが出てきています。こういったことを踏まえまして、現在、雨水流出抑制の指導要綱を検討しているところでございます。何とか来年度から、指導要綱に基づいて抑制対策を進めていきたいということで取りまとめを行っているところでございます。特に、豊島区は雨水流出抑制の適地になっていますので、今検討していますのは敷地面積 1,000 平米当たり 60 立米を目安として、周辺の各区の状況や都の状況もいろいろと調べており、例えば敷地面積 500 平米以上の民間の開発に対しては指導を行っていくというようなことを考えております。あとは、その面積を下回る一般住宅の皆様方にもご協力いただけるように、助成についても検討を進めているところでございます。豊島区も遅ればせながら、こういった対策にも現在取り組んでおります。

○委員

ほとんど同じですが、緑被率がすごく減っているので、ネガティブな評価になるべきだなと思います。10%以内かどうかではなくマイナスの傾向なので。それから、緑被率が減った理由として建て替えが挙げられておりますが、先程のお答えにもあったのですが、ぜひ大きな開発とか再開発のような場合にはしっかり指導していただいて、これから豊島区で緑被率が増える可能性というのは、そういう開発に伴って増やす、ネイチャーポジティブとかポジティブにしていくというところで、しっかりお願いできればと思います。街路樹については強剪定ということで、これも先程あったように熱中症、今本当に熱中症の課題があると思いますので重要な点だと思います。それから緑視率のところで、樹木が生長したから緑視率増えましたとか、街路樹も緑は季節変化によってかなりデータが変わってくる（常緑、落葉）という状況があると思うのですが、モニタリングの方法や季節というのを、方法や場所は統一されていると思うが、季節を含めて統一していかないとデータそのものが信頼するに足るのかということになってくるので、季節変化を前提にしていつ取っているのか、5年ごとにやっているようですが、統一が取れているのかというところが質問なのでお答えいただければと思います。それから緑被率というと、実質的に緑が植わっている土地が増えているのか、そのままなのか、減っているのかということと、緑視率の場合は、植栽地や緑化された場所が増えたのかどうかというのが問題なので、

緑視率、これ樹木が生長したから増えましたというのではなくて、植栽地が増えたのか土地が増えたのかという観点でも評価いただけるといいのかなというふうに思います。

○公園緑地課長

いくつかご質問がございましたが、まずポイントは、合わせてやるというところと、季節においても似たような時期にやっているというところでございます。緑視率が増えた要因といたしましては、やはり建て替えなどで緑化の義務等がございまして、そういったところで古い家が建て替えると、低木等もしくは道路に接道緑化等で緑を植えていくというところもございまして、そういった点で増えているという認識です。

○委員

樹木の生長と書いてあるが、基本的にはきちんと植栽地が増えている、緑化活動がなされているという理解でよろしいですか。

○公園緑地課長

樹木が大きくなっているところもありますが、植栽地も増えているという認識で結構でございます。

○委員

私は単なるコメントですのでお答えいただけなくて宜しいですが、環境教育の担当として連携・協働のところを見ると非常に高い成果指標になっており、取組指標も中間程度ということで頑張っており組まれているのかなと思います。

他のところで例えばごみゼロデー参加率が下がっているところもありますが、単年度の取り組みで一喜一憂というよりは、長期的な取り組み、やはり環境教育は長期的に取り組んでいき継続してやっていくということが重要ですので、今の取り組みの成果というものが維持できるようにやっていただくのが一番いいのかなと思っております。引き続き豊島区の方には頑張っておりたいというふうに思っております。

○委員

先程の説明にもありましたけれど、コロナを経て講座等々あるいは講座に参加する方々がかなり急激に減って、それが戻ってない状況ですし、リユース食器もそのような状況にあるということで、意識の変化に対して今後どのように働きかけていくのかということをお新たに考えなくてはいけないというご説明があったのだと思います。今までは割合、講座でも何でも成熟した大人に対する講座だったと思うのですが、若い人たちと一緒にやっていくというのがあってもいいのかなというふうに思いました。たとえば本日の学生さんたちの報告ですけれども、イケバスに乗って環境について学びましょうと、ぜひ今日発表いただいたような企画も含めてですね、何かイベントを開催していただいたら良いのかなと思いました。それと、先程ごみの分別が非常に難しいとか、そういうの

も今日の発表ではないですけどもクイズ形式にして、それこそ防災関係ではカードゲームで防災を学ぶというがあるので、豊島区のゴミについてカードゲームで学ぶとか、ご提案いただいたところも含めて新しい取り組みをしていただければと考えました。

○環境政策課長

若い人たちに向けての啓発というところが本当に重要と思っております、学校教育の場やいろんな場でさせていただいておりますが、やはりやっている中で非常に今、若い子どもたちの世代、本当に環境についての知識も素晴らしく、そういう効果も実感をしているところです。その人たちにかつて教育した子どもたちが今若者になっているということで、今日の発表にあったようにすでに教育を担う立場の若い世代もこうなっているというところも、ぜひいろんな機会を捉えてですね、若者たちにも活躍してもらいながら、さらに若い世代にもしっかりと伝えていきたいというふうに考えてございます。

○委員

先程委員からお話がありましたが、子どもたちってすごく環境についてちゃんと学んで、それをやっぱり意識するようになるのですよね。私はずっと企業にいた時は食育活動をやっていたんですけども、食育も同じで、小学生はすごくよく覚えている。でもそれがだんだん大人になってくると忘れるのですよ。環境を、きっと小学校のときによく理解してこれからやろうと思うのだけど、だんだん大人になってくると忘れるのですよね、面倒くさくなってやらなくなっちゃう。大人、ちょうど20代30代向けのイベントや参加できる教室ですね、そういったものをやはり強くやっていかないと、いくらイベントの人数が集まっても子どもやシニアばかりだったらいくらやってもきっと豊島区の環境の姿、理想とする姿にはなっていないと思うのですよね。いかに若い人、若いというのは小学生じゃなくて20代30代の一番本当は必要なのだけど、働くことに汲々でそれどころじゃないというそういう世代ですよ。そういう世代にいかに関心を持っていただけのかっていうのをちょっと考えていかないと、なかなか難しいかなというふうに思います。

○環境政策課長

ありがとうございます。子どもたち、中高生・大学生というところまでは確かに今ありますが、その先20代30代くらいのところもやはり途切れないように、非常に重要な視点だと思いますので、ご指摘いただきましたところもしっかりと進めていきたいというふうに考えております。

○委員

先程の緑被率の件ですが、今日教育委員会の方もいらしておられるので、一言だけ。学校の樹木の強剪定が結構ひどいです。私の住まい近くの小学校だと、これは強剪定じゃないですが、シンボルツリーのスタジイがもう瀕死の状態で、見るたびに悲しい気持ちになっ

ていくほどです。校長先生ともお話ししたりするのですが、校長先生や先生方は代わっていかれるので、長い目で教育委員会の方で、学校の樹木、近隣の方からも落ち葉とかいろんな苦情があるのは重々承知していますが、強剪定をあまりしすぎないように何か手立てをしていただけたらと思います。この場を借りてお願い申し上げます。

○環境政策課長

今の状況もしっかり教育委員会とも共有しながら、ご意見を踏まえてできるところを対応していきたいと思います。ありがとうございます。それでは、お時間になりましたので、質問は以上までとしたいと思います。

(会長の音声途切れたため、副会長に交代)

○副会長

それでは第6期第7回の豊島区環境審議会を閉会させていただきます。最後に、初めに報告してくださった学生さんが1人残っておられますので、最後にもう一度、拍手で終わりたいと思います。オンライン参加の会長、皆様もありがとうございました。

提出 された 資料等	<p>【資料第7-1号】 2024年度における「豊島区環境基本計画2019-2030」の進捗状況</p> <p>【資料第7-1号(別紙)】 2024年度における「豊島区環境基本計画2019-2030」の進捗状況</p> <p>【資料第7-2号】 2024年度における「豊島区環境基本計画2025-2030」の進捗状況</p> <p>【資料第7-3号】「豊島区ゼロカーボン自由研究ツアー」</p> <p>【資料第7-4号】「カーボンニュートラルすごろく」</p>
------------------	--